

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人
第5学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人

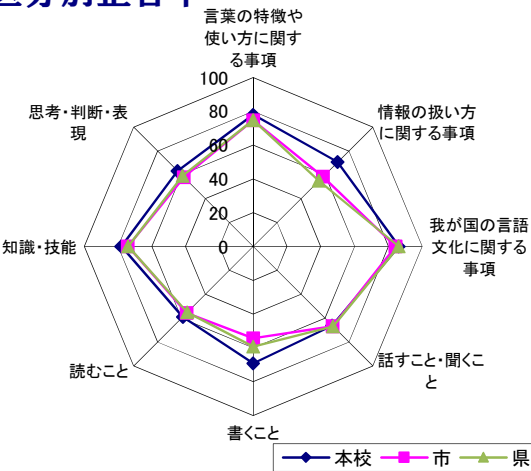
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.0	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	70.8	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	86.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.2	66.7	66.9
	書くこと	69.2	54.3	59.3
	読むこと	58.9	55.6	55.2
観点	知識・技能	78.0	74.1	74.0
	思考・判断・表現	63.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

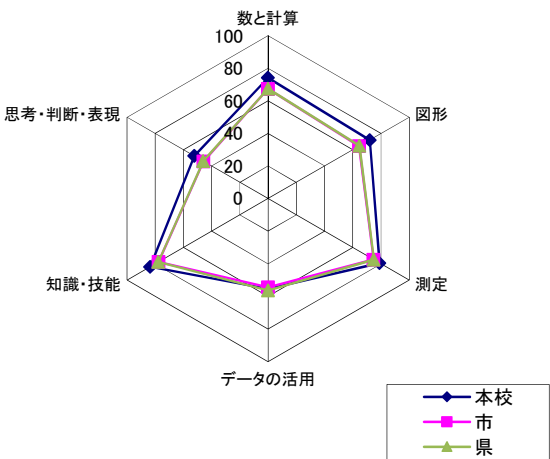
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、県や市の平均正答率を約3ポイント上回っている。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読む問題では、県の平均正答率を11.7ポイント、市の平均正答率を12.8ポイント上回っている。 ●漢字を正しく書く問題では、「薬局」「短い」は県や市の平均正答率を10ポイント程度上回っているが、「鼻」は5ポイント程度下回っている。	・朝の学習や宿題などで既習漢字を定期的に復習するようにしたり、自主学習で苦手な漢字の練習に取り組んだるように促し、漢字の学習をする機会を増やし、慣れ親しむよう指導を行う。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の平均正答率は、県の平均正答率を15.8ポイント、市の平均正答率を12.4ポイント上回っている。 ○国語辞典に載っている情報の中から、必要な情報を正しく選び出す問題では、県の平均正答率を15.8ポイント、市の平均正答率を12.4ポイント上回っている。	・国語の授業や普段の生活の中で、いくつかの情報が提示されたときに、正しい情報を選ぶことができるように指導する。 ・文章の読み取りの際にキーワードに注意させたり、生活の中で周囲の状況をきちんと捉えて情報を選択することができるように助言したりする。
我が国の言語文化にに関する事項	○「我が国の言語文化にに関する事項」の平均正答率は、県とはほぼ同等であるが、市の平均正答率よりも1.9ポイント上回っている。	・漢字のへんやつくりに関する問題では、86.2%の児童が正しいへんを選ぶことができている。今後も、新出漢字の学習の際にへんやつくりなどの漢字の部首に着目させたり、漢字辞典で部首索引を使って漢字を集めたり調べたりする活動を折に触れ取り入れたりし、漢字がへんやつくりによって構成されていることに興味をもちながら学習できるよう、指導する。
話すこと・聞くこと	●「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率をやや下回っている。 ○司会者の話し方の工夫を捉える問題では、県を5.3ポイント、市を6.2ポイント上回っている。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら記述する問題では、県の平均正答率を11.4ポイント、市の平均正答率を11.2ポイント下回っている。	・話し合い活動を行うときに、聞き手に考えが伝わりやすい言い方を工夫するとともに、司会者の役割も考えて話し合いを進められるような指導を行う。 ・話し合いの内容を聞き取る活動では、話し手が伝えたいことの中心を捉えながらメモを取ることができるよう指導を行う。 ・話し手の意見に賛成か反対かを考え、理由を挙げながら考えをまとめ、聞き手に伝わる話し方ができるよう指導を行う。
書くこと	○「書くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を9.9ポイント、市の平均正答率を14.9ポイント上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、県の平均正答率を15.5ポイント、市の平均正答率を21.3ポイント上回っている。 ●全設問において、平均正答率が全て県や市を上回っているが、無解答の児童の割合も20%程度と高くなっている。	・国語の学習に限らず、文章を書く活動を取り入れるように努め、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えるよう指導していく。 ・書くことの指導においては、伝えたい相手や目的に応じて書く材料の集め方やまとめ方を工夫し、伝えたいことを明確に記述できるよう、指導を行う。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県の平均正答率を3.7ポイント、市の平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ●物語文の内容を読み取る問題では、県や市の平均正答率を上回っているものが多いが、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題の平均正答率は、県の平均正答率を10.3ポイント、市の平均正答率を11.5ポイント下回っている。	・物語文では、文章の表現を基に場面の様子や登場人物の気持ちの変化などを読み取ることができるよう、教科書にある物語教材の読み取りを通して指導を行う。 ・説明文では、文と文との意味のつながりを意識して読んだり、中心となる言葉を見付けたりできるよう、指示語や接続語、文末表現などに着目しながら、内容を捉えるような学習活動を行うようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	67.3	67.4
	図形	72.0	64.5	64.7
	測定	78.9	74.7	74.9
	データの活用	55.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	83.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	52.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

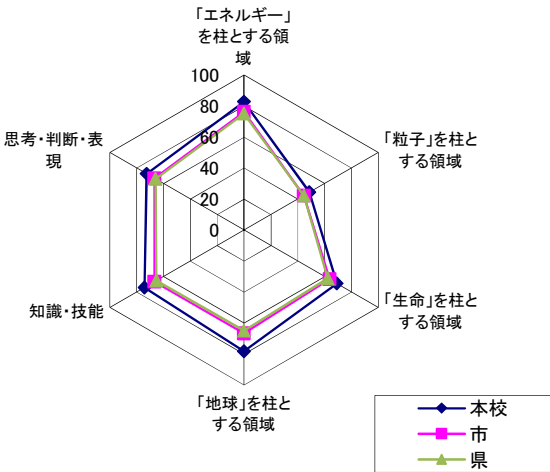
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の平均正答率は、県や市の平均正答率を7ポイント程度上回っている。 ○小数の仕組みや表し方として正しいものを選ぶ問題の正答率が高く、100%である。 ●式の意味を正しくとらえて言葉で説明する問題では、県や市の平均正答率を上回っているが、平均正答率は18.5%と低い。 ●□を使った除法の式に合った文章問題を選ぶ問題では、県や市の平均正答率を上回っているが、平均正答率は50.8%と低い。	・朝の学習や計算検定などを通して、計算の習熟を図り、個に応じた指導をするとともに、一人一人の計算技能の向上に努める。 ・文章問題に苦手意識をもつ児童が多く見られるため、式を読み取って文章で表したり、自分の考えをノートに書き表したりする等、文章問題に慣れる機会を増やしていく。
図形	○「図形」の平均正答率は、県や市の平均正答率を7ポイント以上上回っている。 ○円の半径と直径について正しいものを選ぶ問題では、県の平均正答率を9.7ポイント、市の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ●二等辺三角形を作図する問題では、県の平均正答率を4.4ポイント、市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。	・授業の中で、正しい作図の手順を整理したり、作図の仕方をノートにまとめたりする機会を増やしていく。 ・正しい道具の使い方が分かるような教材教具を工夫し、繰り返し作図をする時間を設ける。
測定	○「測定」の平均正答率は、県や市の平均正答率を4ポイント以上上回っている。 ○地図から道のりを読み取ってその和を求める問題では、県の平均正答率を4.3ポイント、市の平均正答率を5.2ポイント上回っている。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市の平均正答率を上回っているものの、平均正答率は50.8%と低い。	・算数の授業だけでなく、社会科や理科などの他教科や日常生活の中で、実際に器具を操作して、長さや重さなどを測る機会を設けていく。
データの活用	○「データの活用」の平均正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ○棒グラフを読み取る問題では、県や市の平均正答率を4.7ポイント上回っている。 ●1目盛りの数が異なる2つの棒グラフを読み取る問題では、県の平均正答率を6.7ポイント、市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。	・様々な項目のグラフを読む練習を繰り返し行い、必要な情報を正確に選び、出題されている文章との整合性を判断できるような学習活動を取り入れる。 ・算数の授業だけでなく、社会科や理科などの他教科と関連させたり、日常生活の中で表やグラフを活用する機会を増やしたりしていく。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	82.7	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	48.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	69.1	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	78.2	66.6	64.9
観点	知識・技能	74.2	66.8	65.4
	思考・判断・表現	72.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を7ポイント程度上回っている。問題の内容別に見ても、県や市の平均正答率を上回っているものが多い。 ○「音の性質」については、どちらの問題も、県の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ○「電気の通り道」については、電気を通す性質がある物の名称を答える問題で、県の平均正答率を13.8ポイント上回っている。	・既習内容や児童の生活経験を基に、予想や仮説をもたせて観察や実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。 ・基礎的な観察や実験の器具の操作について、きめ細かい指導を行う。 ・学習した内容を基に、さらに発展的な考察ができるよう、基礎的な知識について細やかな指導を行い、既習の内容の定着を図るようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率をそれぞれ4.2ポイント上回っている。 ○「物と重さ」について、物の重さから同じ種類の木でできている積み木を推測する問題で、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●「物と重さ」について、姿勢を変えて測った体重はかわらないことを選択肢の中から選ぶことはできているが、その理由を記述することができず、県や市の平均正答率をやや下回っている。	・物の形を変えても重さは変わらないことを実験を通して理解できるようにする。 ・実験結果から答えを導き出し、その理由を考えたり話し合ったりする学習活動を設定し、理由について記述できるようにする。
「生命」を柱とする領域	○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を6ポイント程度上回っている。問題の内容別に見ても、ほとんどの問題において県の平均正答率を上回っている。 ○「昆虫の成長と体のつくり」については、アゲハが卵をうみつける場所を選ぶ問題で、県の平均正答率を20.6ポイント、市の平均正答率を12.8ポイント上回っている。 ●「植物の成長と体のつくり」については、ホウセンカの成長の順序を選ぶ問題で、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っているものの、平均正答率は27.7%と低い。 ●虫眼鏡の使い方を選ぶ問題では、県や市の平均正答率をやや上回っているものの、平均正答率は23.1%と低い。	・観察や実験の意図や目的をよく考えさせ、主体的に取り組ませるようにする。 ・学習した内容を正しく理解できるように、観察や実験の結果から考察したことなどを全体でしっかりと共有するようにする。 ・基本的な観察の道具の使い方について丁寧に扱い、きめ細やかな指導に努める。
「地球」を柱とする領域	○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ○「太陽と地面のようす」については、全ての問題で、県や市の平均正答率を上回り、区分平均は県の平均正答率を13.3ポイント上回っている。特に、温度計の使い方を選ぶ問題では18.8ポイント、太陽の位置の変化を方位で答える問題では25.2ポイント、県の平均正答率を上回った。	・観察や実験に使う器具の扱い方を丁寧に指導し、正しく計測できるスキルを身に付けさせる。 ・実験の結果を予測させ、記録結果と照らし合わせる経験をすることで、根拠のある予想ができるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」に関する質問では、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を上回っている。本校の児童が、宿題だけでなく自主学習にも進んで取り組んでいることがうかがえる。

○「読書」に関する質問では、「1か月に11冊以上本を読む」と回答した児童が、県や市の平均を10ポイント以上上回っている。本校の児童が読書することに意欲的であることがうかがえる。

○「学ぶ意欲」に関する質問では、「本やインターネットなどを利用して勉強に関するじょうほうを得ている」「むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を上回っている。本校の児童が、向上心や知的好奇心をもって学習に取り組み、疑問が生じたときには、本やインターネットなどの適切な方法で疑問に思ったことを粘り強く解決している様子がうかがえる。

○「自分自身のこと」に関する質問では、「むずかしいことでも失敗を恐れなくてちょう戦している」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均をやや上回っている。何事にも前向きに挑戦し、自分の力を伸ばそうとする児童が多くいることがうかがえる。

○「家族のこと」に関する質問では、「家の人と学校の出来事について話をしている」「家の人としょう来のことについて話することがある」「自分は、家族の大切な一員だと思う」「家でのきまりや約束を守っている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を上回っている。家庭でコミュニケーションを多くとっている様子が読み取れる。

●「家庭での学習」に関する質問では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の平均を下回っている。家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の内容ややり方について助言し、家庭学習のやり方を身に付けることができるように指導する。

●「学ぶ意欲」に関する質問では、「勉強していてもおもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。学習の中の疑問点を自力で解決する活動を取り入れ、やり遂げた達成感やうれしさを実感させ、学習への意欲を高めていきたい。

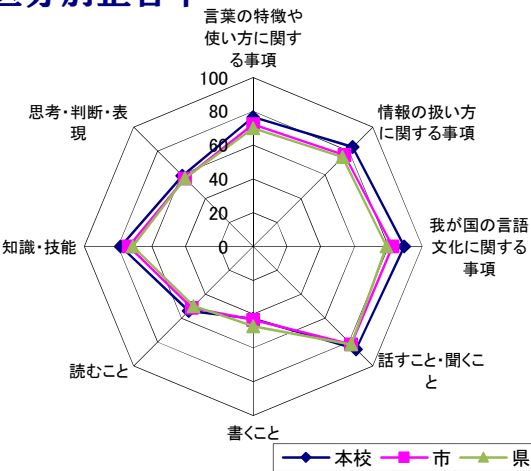
●「学校での様子」に関する質問では、「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。授業の中で、積極的に話し合う活動を取り入れ、ペアやグループなどの少人数から段階を踏んで、クラスの中での話合いに参加できるよう支援を行う。

●「家での生活」に関する質問では、「1日当たり4時間以上テレビゲームをしている」「1日当たり4時間以上、携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットをする」と回答した児童の割合が、県や市の平均を上回っている。情報機器などの適切な使用時間について、指導していきたい。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.6	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	83.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	89.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	86.0	81.9	82.0
	書くこと	42.8	43.5	47.2
	読むこと	54.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	78.4	73.6	71.3
	思考・判断・表現	59.2	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

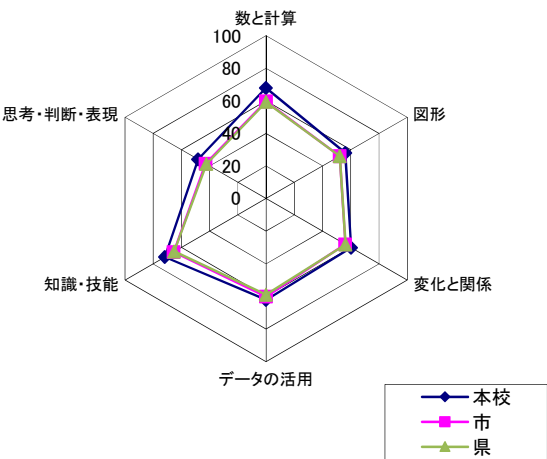
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、市の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ○漢字を書く問題では、正答率が高い。 ●連用修飾語の問題では、正答率が低く、県の平均正答率を10.2ポイント下回っている。しかし、連体修飾語の問題では、県の平均を16.1ポイント上回っている。	・言葉の学習において、どの言葉を詳しく説明しているかを意識する学習の機会を設け、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」、漢字辞典の使い方についての平均正答率は、県の平均正答率を8.4ポイント、市の平均正答率を6.9ポイント上回っている。	・様々な学習の中で、辞典や図書資料などを適切に、効率よく活用できるよう、機会を設け続けることで、情報の扱い方の定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	○「我が国の言語文化にに関する事項」、ことわざの問題の平均正答率は、県の平均正答率を10.5ポイント、市の平均正答率7ポイント上回っている。	・今後も、ことわざを授業で積極的に取り上げ、言語文化に関する知識の向上を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○意見の共通点に着目して、話し手の工夫を捉える問題では、正答率が高く、市の平均正答率を7.9ポイント上回っている。さらに、司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して、考えをまとめる問題では、市の平均正答率を9.6ポイント上回っている。 ●自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題では、市の平均正答率を1.4ポイント下回った。	・今後も、自分の考えをもち、他者に話す活動を取り入れ、話すこと・聞くことの向上を図る。 ・自分の考えを理由を挙げて話したり、相手の話からその理由を聞き取ったりする活動を取り入れることで、理由を意識させる。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を下回った。 ●指定された長さで文章を書く問題では、県の平均正答率を7.1ポイント、市の平均正答率を2.7ポイント下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、県の平均正答率を10.2ポイント、市の平均正答率を6.4ポイント下回っている。	・文章を書くときには、伝えたいことをメモに表して内容をよく整理し、自分の考えをまとめられるように指導する。 ・事実と自分の考えを分けて書くことを意識させたり、段落の構成などを考えさせたりする活動をする中で、整理された文を、決められた分量で書けるようにする。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題では、県の平均正答率を12.9ポイント、市の平均正答率を9.7ポイント上回っている。 ●段落相互の関係を捉える問題では、市の平均正答率を4.6ポイント下回っている。	・物語の学習において、登場人物の気持ちや心情について話し合わせたり、書かせたりする活動を積極的に取り入れていく。 ・説明文の学習において、段落の構成を意識させ、文章の内容をきちんと捉えることを意識して指導する。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.9	59.7	59.2
	図形	56.1	52.1	52.1
	変化と関係	60.2	56.1	56.3
	データの活用	62.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	71.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	48.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

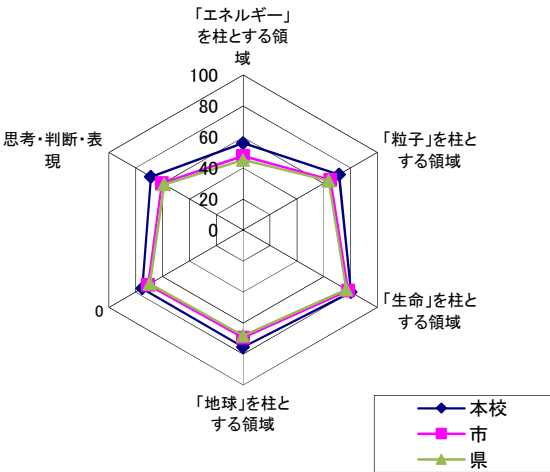
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の平均正答率は、県の平均正答率を8.7ポイント、市の平均正答率を8.2ポイント上回っている。 ○小数や分数の計算、大きい数のしくみに関する問題では、県の平均正答率と同等、または、10ポイント以上上回っている。特に、小数の大きさの順で正しいものを選ぶ問題では、県の平均正答率を29.1ポイント、市の平均正答率を26.2ポイント上回っている。 ●概数を利用して見積もる問題では、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っているが、37.9%と低い。 ●小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する問題では、県や市の平均正答率と同等であるが、16.7%と低い。	・引き続き、本校独自の計算検定(年間10回)を活用して、計算技能の定着に努める。 ・数のしくみを確認したり、大小を比べたり、おおよその数を見積もったりする等の活動を意図的に設定し、数に親しみ数量感覚を養うとともに、数のしくみや概算等への理解を深めるようにする。
図形	○「図形」の平均正答率は、県や市の平均正答率を4ポイント上回っている。 ○三角定規の角度を選ぶ問題の平均正答率は83.3%で、県の平均正答率を18.6ポイント、市の平均正答率を17.1ポイント上回っている。 ●年賀はがきの面積と単位を選ぶ問題や面積の単位の関係を説明する問題では、県や市の平均正答率と同等であるが、平均正答率は30%台と低い。 ●ひし形の作図をする問題では、県の平均正答率を9.5ポイント、市の平均正答率を6.1ポイント下回っている。	・図形についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら丁寧に指導し、繰り返し練習を行うことで定着を図る。 ・面積の求め方や作図の仕方等は、デジタル教科書や実物投影機等を用いて視覚的に捉えさせることで、理解を深めていく。児童の理解に応じて練習を工夫したり、練習の機会を設けたりする等、指導の充実に努める。 ・学習や生活の中で、身近なものの面積や体積、単位、角度等を考える機会を意図的に設定し、量感を養う。
変化と関係	○「変化と関係」の平均正答率は、県の平均正答率を3.9ポイント、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明する問題では、県の平均正答率を20.4ポイント、市の平均正答率を17.3ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する問題では、県や市の平均正答率と同等であるが、21.2%と低い。	・表や図、文章から数量の変わり方を読み取る際は、活動時間を確保し丁寧に確認しながら学習を進めることで、数量の関係について捉えられるようにする。 ・読み取ったことから2つの数量の関係を説明したり、式に表したりする活動を意図的に取り入れ、伴って変わる2つの数量の関係への理解を促していく。また、繰り返し練習を行い、様々な場面での活用を図れるようにする。
データの活用	○「データの活用」の平均正答率は、県の平均正答率を3.2ポイント、市の平均正答率を2ポイント上回っている。 ○折れ線グラフから温度の差を読み取る問題では、県の平均正答率を8.7ポイント、市の平均正答率を7.2ポイント上回っている。 ●折れ線グラフから分かることを選ぶ問題では、県の平均正答率を7.2ポイント下回り、平均正答率も48.5%と低い。 ●二次元表から人数を考える問題では、県の平均正答率を9.5ポイント上回っているが、平均正答率は31.8%と低い。	・折れ線グラフや二次元表等を正確に読み取ったり、根拠を明確にして説明したりする活動を取り入れることで、分類整理の考え方の理解を促し、データを正しく捉える力を伸ばすようにする。 ・日常生活や他教科の学習を通して、様々なグラフや表を活用する機会を増やしていく。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	56.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	71.4	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	75.5	69.5	68.1
観点	0	75.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	68.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を10.8ポイント、市の平均正答率を8.3ポイント上回っている。 ○電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測することができるかどうかをみる問題では、県の平均正答率を22.9ポイント、市の平均正答率を18.9ポイント上回っている。	・実験、観察の結果を表やグラフ、図などに整理してまとめるようにし、結果から考えられることについて意見を交換しながら、内容の理解を深めるようにする。 ・導入や考察において、自分の考えを書いたり話したりする機会を設け、課題について根拠のある予想をしたり、学んだことを身の回りの現象に結び付けたりすることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を7.8ポイント、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ○夏に線路のレールのつなぎ目がない理由を温度による金属の体積の変化に着目して記述で答える問題では、県の平均正答率を13.3ポイント、市の正答率を10.3ポイント上回っている。 ○熱気球がうかび上がるしくみはあたためられた空気の性質を利用していることを推測する問題では、県の平均正答率を12.9ポイント、市の正答率を12.8ポイント上回っている。	・日々の生活の中で身の回りで起きている事象について、根拠と結び付けて考えたり、説明したりする機会を設定し、科学的思考を深める指導に努める。
「生命」を柱とする領域	○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を3.5ポイント、市の平均正答率を2.1ポイント上回っている。 ●腕を曲げた時の筋肉のようすを理解しているかどうかをみる問題では、県平均を4.3ポイント、市平均を4.9ポイント下回っている。	・教科書の資料以外にも、ICTを活用し、映像など様々な資料を提示することで、腕を曲げたり伸ばしたりした時の筋肉のようすについて理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を7.4ポイント、市の平均正答率を6ポイント上回っている。 ●月の動き方と動く向きを理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を8.5ポイント、市の平均正答率を6.4ポイント下回っている。	・ボールを月、ライトを太陽を見立て、実際にボールを動かし、月はどうのように動き、地球からどう見えるのかを体験学習することで、月の動き方についての理解を深められるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家庭での学習」の質問では、「家で学校の宿題をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。家庭での学習にしっかりと取り組んでいる児童が多いことが分かる。	
○「学ぶ意欲」に関する質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。学ぶ意欲が高い児童の姿がうかがえる。	
○「学校での様子」の質問では、「毎日の生活が充実していると感じる」「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。授業内において、児童同士が良い雰囲気の中意見交換ができてることがうかがえる。	
○「家での生活」の質問では、「毎日朝食を食べている」「早寝早起きを心掛けている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。朝食をとることの大切さや基本的な生活習慣が身に付いている児童の姿がうかがえる。	
○「自分自身のこと」の質問では、「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分の行動や発言に自信をもっている」「人と話すことは楽しい」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標をもっている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。夢や目標をもち、周囲と関わる中で、自己肯定感が高まり、自信をもって行動していることがうかがえる。	
○「家族のこと」の質問では、「家の人と学校での出来事について話している」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話している」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。家族の一員として家の人から大切にされ、将来や学習についても寄り添ってもらっていると感じている様子がうかがえる。	
○「教科の学習のこと」の質問では、どの教科も将来役に立つと前向きにとらえ、必要性を感じながら学習に臨んでいる姿がうかがえる結果となっていた。	
●「家庭での学習」の質問のうち、「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っていた。引き続き、家庭学習で予習・復習をすることの大切さについて確認し、しっかりと復習をした上で予習をするように指導を続けていく。	

宇都宮市立城東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施して、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、ほぼ県や市と同等であるか上回っているが、漢字の書きについての設問では、無回答率が高いものがある。また、5年の連用修飾語についての設問で、正答率が低く、課題が見られる。 算数では、「数と計算」の基本的な内容の設問において正答率が高いものの、5年の概数の理解についての設問において正答率が低く、課題が見られる。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年に2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達の考えをノートにまとめるときのきまりやマークを校内で統一している。また、模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語の「書くこと」の領域では、県の平均正答率を4年は9.9ポイント上回っているが、5年は4.4ポイント下回っている。 質問紙において、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」と回答した児童の肯定割合は、4年では県の平均より2.5ポイント上回っているが、5年では県の平均より3.8ポイント下回っている。
児童が学ぶ楽しさを味わい進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確にし、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	本校では、どの教科も、「思考・判断・表現」の観点において、県や市の平均正答率を上回っている。 質問紙において、「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」と回答した児童の肯定割合は、4年では県の平均より2.9ポイント上回っているが、5年では県の平均より11.8ポイント下回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の肯定割合は、4年では県の平均より11.4ポイント下回っているが、5年では県の平均より5ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年国語の、参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を記述する設問では、県平均を上回っているものの、正答率は30.8%であった。 5年国語の、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを注意事項を守って書く記述式の設問では、県平均を1.2ポイント下回り、正答率は36.4%であった。 5年算数の、伴って変わる2つの数量の関係について表から分かることを書く記述式の設問では、正答率が県平均を3.8ポイント下回り、21.2%であった。 4年理科の、実験結果から体重の変化を推測し、その理由を記述する設問では、県平均を0.7ポイント下回り、正答率は9.2%であった。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成	各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実するような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことをよく考えさせ、目的を意識した文章を書くように指導していく。 理科で実験や観察を行う際は、学習問題に正対した考察をすることができるよう、結果を整理した後、改めて学習問題について振り返らせる活動を重視していく。